

つくば日中協会ニュース

(筑波日中協会会報) 第14号

No. 14 (2009.2)

発行：つくば日中協会

事務局：〒305-0031 茨城県つくば市吾妻4-13-21 (川久保方)

Tel&Fax 029-851-4619

恭賀新禧 万事如意



ご挨拶

つくば日中協会 会長 不破 正宏

新年好！今年の春節は1月26日でした。皆様はどのように過ごされましたでしょうか。当つくば日中協会も名誉会長はじめ会員諸氏のご支援・ご協力により、今年は16年目を迎えることになりました。皆々様に有り難く感謝いたします。今年度は、毎年大きな行事として計画されながら、なかなか実行にまで至らなかった中国研修旅行をほぼ10年ぶりに行う事ができました。（第1回目の中国旅行は平成7年に、第2回目は、平成11年に実施しています。）加えて、当協会の恒例行事となった筑波山登山、日本の家庭への請客、忘年日中交歓会など、つつがなく実行されました。これも、あらゆる場での皆々様、関係各位の温かいご理解・ご支援の賜物であると、心から御礼申し上げます。

さて、今回のニュースは、上述の中国旅行を始め、皆様からの寄稿・報告で盛りだくさんの内容で発刊できることを大変嬉しく思っています。発行が予定より少々遅れましたことをお詫び致しますが、どうぞご一読下さい。

案内

2009年度中国語講座を開講します！！

2009年度の中国語講座を開講します。つくば日中協会会員の中国人講師陣によるご指導とつくば市教育委員会のご後援の下で実施されます。

中国語を学びながら中国文化への理解と日中の市民間の友情を深めましょう。

コース：「入門」「初級」「応用」「基礎会話」「新漢語」の5コースです。

期 間：平成21年4月14日（火）～平成22年3月19日（金）【全40回】

詳しい日時・会場の案内表は、ホームページ

http://www.geocities.jp/tsuku_nittyuu/

「H21年度中国語講座開講案内」の「平成21年度中国語講座カレンダー」に掲載してあります。ご参照下さい。

報 告

1. 筑波山登山報告

つくば日中協会事務局長 川久保 忠通

開催日：2008年9月27日（土）

集合場所&集合時刻：筑波大学南駐車場（野球場横）、7時30分

参加者：*筑波大学中国人留学生(25名)

*つくば日中協会関係者（11名）うち1名は行きの送りのみ。

行動概略：

- 7:20－中国人留学生が集まり班分け。
- 7:31－会長挨拶。食料と飲料水の分配。
- 7:40－8台の車に分乗。
- 8:10－筑波山第3駐車場。
- 8:35－筑波山神社
- 9:05－ケーブルカー中間点
- 9:45－御幸ヶ原（参加者の一部は男体山に登る）
- 10:44－出発。
- 10:59－女体山
- 11:46－つつじヶ丘との分岐点（弁慶茶屋跡）
- 12:47－筑波山神社
- 13:15－筑波山第3駐車場
- 13:45－筑波大学南駐車場にて解散



ガマの油口上



筑波山神社

行動：

昨年の登山は小雨が降って登山に行っていないものかどうか迷ったが、今年は好い天気であった。聞くところによると中国人留学生の今回の参加希望者は50人以上であったとの事。つくば日中協会としては希望者全員をお連れしたいが当日運転者として参加する日本人の数や、予算（参加者全員に食べ物と飲み物の支給）の都合もあり、30名定員という事にしたが、人選をされた孟さんのご苦勞は大変だったらしい。結局、5名の学生が無断欠席したので来年もこの程度の欠席者は出ると見込んで定員より1割程度多めにお誘いした方が良くと思う。



弁慶の七戻り付近

出発前に留学生の方々に「迷子になると大変だから先頭の日本人オジサン（川久保の事）より先に行かない事」をお願いし、事前に孟さんに5,6人の班分けをして頂いたので「同じ班の人たちは一緒に登る事」をお願いしたせいか、皆ゆっくりしたペースで談笑しながら登って行った。それでも御幸ヶ原に着く頃には先頭と最後尾は随分離れていたのも元気の良い人は男体山に登る事にした。大勢の若者が登るかと思いきや、殆どの人たちは御幸ヶ原の休憩を楽しんでいた。男体山の頂上からの景色は生憎富士山は見えなかったが眼下に関東平野の雄大な景色が展開し、いつ来ても感動する。

御幸ヶ原でゆっくりと食事と休憩を取って女体山に向った。頂上は人で一杯であり、岩がツルツルなので滑らないように注意しなくてはならない。ゴンドラの行きかう景色、ゴルフ場、霞ヶ浦など何時までも見ていたいのが適当な時間で切り上げ出発。ここで不破さんや日本人の



女体山山頂

女性軍はケーブルカーで下山する事とし、他は弁慶の七戻り経路でゆっくりと下山した。筑波山神社では観光客用にガマの油売り口上の実演をやっていたので留学生の方々には珍しかったと思う。

最後尾を飯田さんがしっかりと確保して歩いて下さったおかげで迷子も出ず、けが人もなく無事筑波大に帰り着いた。

反省点：

- (1) 当日欠席者が出ることを見越して中国人学生の参加受付け数は定員の1割増しで良い。
- (2) 迷子が出ないように出発前に5,6人単位で班分けをしてその班で行動して頂くようお願いしたのはなかなか効果的であった。
- (3) トランシーバーで先頭の川久保と最後尾の飯田さんとで連絡を取り合う予定であったが、殆ど通信不能であった。昨年はある程度有効であったので何故今年有効でなかったのか原因は不明である。
- (4) 私の判断ミスで車が多く集まりすぎ、結果的には同乗者がいない車があり、無駄にガソリンと駐車料(500円)を使ったことになった。来年はキッチリと計算する事。
- (5) 参加者全員に食べ物(オニギリ3個とおやつ)と、飲み物(500ccのお茶)を支給した。少々予算をオーバー。来年は参加者全員にスポーツ保険もかけた方が良いので、協会予算の見直しも必要かと思う。

感想文

参加された留学生の方々から、感想文が寄せられましたので紹介いたします。

馮さん(女)：

非常高兴能够参加这样的活动，在这次活动中，我们不仅更好地认识了日本，认识了我们所在的环境，而且在这次活动中我们还和日本友人进行了交流。对于我们这些刚刚到达日本的人来说，也提供了我们一个机会去了解这里的人，这里的风土人情，同时还可以在这个过程中学习地道的日语。所以这样的活动，使我们获益匪浅，所以希望以后还能有机会参加。同时，非常感谢这次参加活动的日本友人，他们非常友善，也非常热情和周到，让我们感受到了来自日本友人的友好，非常感谢日中协会组织这样好的活动。谢谢！

楊さん(男)：

首先，非常荣幸能够参与这次活动。通过这次登山活动，我体会到了日本朋友的友好与亲切，并对日本友人做事的计划性，团队精神以及守时精神深有感触。

希望在以后的登山活动中，可以在山顶开展一些集体活动以增进相互间的交流，而不仅仅是上山，休息，下山。

最后，感谢学友会和日中友好协会相关同学和友人的辛苦工作。

孫さん(男)：

首先，感谢学生会和日中协会的友人，感谢你们组织这次活动，你们辛苦了。通过这次活动认识了好多留学生朋友，大家在一起的很开心，也增长了好多知识。有一些小小的建议仅供参考；

1, 我感觉在活动的过程中，我们是不是因该带一面旗帜，当然考虑到室登山不要太大。这样我们即可以利用旗子照相留念，同时也是对我们学校的一种宣传，也展现咱们中国留学生的精神面目。

2, 个人感觉活动稍显枯燥, 是不是可以加上一些小的游戏等等, 活跃以下气氛。呵呵。
总之活动很成功, 再次感谢!! 同时也代我感谢日中协会的 友人。

薛さん(男):

感谢你们细致的工作, 我认为上周的登山活动很好。不论是从日程安排上还是爬山过程中的气氛, 都非常满意。这次登山不但满足了爬筑波山的愿望。还结识了一些朋友。非常感谢! 希望自己今后可以多参加一些这样的活动

李さん(女):

中日协会组织的等筑波山的活动很有意义。第一, 增加了我们对日本的文化的了解。第二, 可以认识好多新朋友。第三, 身心得到了锻炼。平时在研究室学习很枯燥, 很难得的机会出去感受自然, 放松心情。希望中日友好协会能多组织一些类似的活动。谢谢。

王さん(男):

我个人是第一次参加日中协会的活动, 感觉比我想中的要好。从开始报名到最后活动结束显得很专业很有纪律性, 并且把爬山中会遇到的困难提前通知大家, 所以在有准备的情况下, 活动得以顺利的进行。感谢日中协会的老师以及学友会的同学们, 给大家创造了一个很好的交流机会。希望以后能有更多的活动, 我一定积极参加。

3. ホームパーティー報告

つくば日中協会会員 中村 妙子

我が家でホームパーティーを行った日はあいにくの雨でした。家は土浦なので、お招きするに、つくばまでお迎えに行くつもりで、主人のお休みの土日を希望しました。が、お招きした、ヒョウさんは、来日4年で、ご主人も日本の大学の大学院を卒業して日本企業にお勤めで、日本語がぺらぺら、自分でマイカーを運転して、イケメン2人従えて待ち合わせの土浦市役所に現れました。車があるので自由につくば周辺を買い物や行楽に出かけていて、大学の先輩も神立の企業に就職しているので、社宅とかも行かれているようで、いまさら、日本の家庭を紹介するような次元ではありませんでした。どうしようかと思いましたが、たまたま、その日はちょうど地区の子ども会の餅つき大会があって、参加させていただきました。臼や杵で餅つきの後お雑煮や餡餅をいただき、ほんの少し日本の文化に触れていただきました。(2009. 2. 13原稿受理)

4. つくば日中協会年忘れ日中交歓会報告

つくば日中協会幹事 川村 路子



2008年12月21日(日)9:00~15:00、ゆかりの森にある老人福祉センター「とよさと」にて筑波大学中国人留学生の皆さんと日中協会の会員と家族、約60名が参加して忘年会を行いました。留学生の皆さんにも早く集まっていたいただいて、水餃子作りの準備の段階からお手伝いいただきました。粉をこねた後、皮を伸ばす人、包む人、皆で作りました。中国人や日本人の中にも初体験の人もありましたが、包み終わるころには皆かなり上手になっていました。台所で

は、日本人男性が腕をふるって酢豚を作ってくれました。またテーブルには有志の人が家で作ってきた豚肉のコーラ煮、サラダ、お汁粉、漬物、また注文した手巻き寿司など和、洋、中と盛りだくさんの料理が並びました。

会長の不破さんと留学生会会長の劉さんの挨拶があり、その後各テーブル毎に親睦を深めながらの楽しい食事となりました。食事の合間には、11月に中国語受講生16名が行った中国旅行の報告が映像を交えてありました。その後、留学生のピアノ演奏や、会長夫人の名司会によるクイズや、ビンゴゲームなどで大いに盛り上がりしました。

最後には参加者全員で後片付けをして、無事終了しました。

このような交流が少しでも日中友好の架け橋となればと願っています。

5. 春節パーティー報告（筑波大学中国留学生学友会主催）

文 つくば日中協会幹事 宮島 利博
写真 つくば日中協会講師 楊 豪傑

2008年1月25日（日）、筑波大学で春節パーティーが開催されました。私は昨年に引き続き2回目の参加となりました。当協会の他に茨城県日中友好協会及び県内の各日中友好協会等が招待を受けました。同日、中国語講座の講師の先生宅でもホームパーティーが開催され、春節パーティーに参加されていた会長及び川久保さん、鈴木さんが途中で退席し、先生宅に向かわれたことから、最後まで参加したのは私と受講生のMさん夫妻となりました。私にとって今回が2回目の参加となったためか、いささかも足らない印象を受けました。



昨年の当協会活動の中では協会会員と寧波大学の日本語科学生との交流をメインにした旅行が好評でした。また、筑波山登山及びホームパーティーへの参加を希望者する筑波大学留学生が多く、参加者を抽選で選ぶほどの人気ぶりでした。現在、日本と中国は文化交流、経済交流が活発になり、形式的な交流ではなく、中国や日本の伝統や文化、またはありのままの現在の中国や日本にふれることができるような企画でなければ、お互いに満足感の得られるイベントにはならないでしょう。

ともすれば控えめな日本人は自己主張することなく受け身になりがちですが、せっかくの交流の機会なのですから、当協会からももっと大人数で参加して、日本の正月と中国の春節の違いを「えー」なんて言いながら楽しく理解できて、遊び感覚に富んだイベントの形式を提案できないものかなどと考えていたのでした。



中国旅行報告

つくば日中協会監事 飯田 茂

今年度の協会行事の内、15周年記念に企画しました中国旅行（中国語の現地研修と市民交流）を無事に行うことができました。

ご参加下さいました皆さん、また非常にご尽力・奔走して下さいました楊先生・楊先生ご家族・ご親戚の皆様、何もかも無事に行えることができましたのも、ひとえに中国の皆様のおかげと、大変大変感謝いたします。

ここにお礼を申し上げます。非常非常感谢！！

報告	日程	2008年11月22日～24日		
	行程	1日目(21日)	成田→上海→(杭州湾大橋)寧波	寧波泊
		2日目(22日)	午前：寧波大学日本語科学生と交流。午後：寧波市内観光 夜：飯店のレストランで交流ディナー会	
		3日目(23日)	紹興・魯迅故居など見学→上海	
		4日目(24日)	上海→成田	

【*記録本文が長文のため抜粋させていただきました。記録本文をご希望の方はお近くの役員にお知らせ下さい。】

立冬が過ぎた2008年11月21日早朝、参加者は分乗して、成田空港に向けて出発。

11時25分、成田空港第二ターミナルに到着。全員がそろい点呼し、税関など出国手続きがすむとお昼時間がすぎた。

13時20分、63番カウンターから搭乗が始まり、中国東方航空MU524便は、13時55分無事Take Off。数分のち、雲の上の人となった。中国時間16時15分、上海浦東空港着。入国手続きをすませ、外に出ると薄暮で気温はやや低い、急ぎ足で用意されていたバスに乗り込む。

17時すぎ、浦東空港をあとにする。夕闇の街が広がっていく。案内役の「导游小姐」は、いかにも浙江人らしい瞳の大きな「漂亮なお顔立ち」で、「普通话」ははっきりしていて捲舌音がやや聞き取りにくい以外はGOODだが、こちらが「听力不足」。で、ここは楊先生のお力をお借りすることになる。

空港からすべり出したバスは、20時すぎ杭州湾海越大橋に差しかかる。导游小姐の説明では、全長36kmのこの大橋は、本年5月に竣工し、118億元かかったそうである。この高速道路の緩やかなS字形カーブは橋梁にかかる潮流の負荷を減らす設計で、「J」の字を逆さまにしたその先端の黄色のナトリウムランプの光が見事なページェントとなって夜景を演出している。また、中央分離帯の両側のガードレールは7色の塗料が塗り分けられ、ドライバーの目の疲れを癒している。

寧波市に入る。高速路を降りしばらくすると、まばらであった人家が、密集し始め工場やメーカーの出先店、商店、などが少しずつ姿をみせ始めた。

21時30分に寧波市の楊先生のお宅の近くのレストランに入る。楊先生のご両親のお出迎えは、相当に豪華な歓待であった。

不破会長の挨拶、川久保事務局長の乾杯で宴は開始された。たくさんの郷土料理が並べられ、何でも「真好吃」。小さなごま団子もほのかに甘く、それとともに「老酒」（紹興酒）をしたたかいたたく。

そのあと、楊先生のお宅を訪ねる。

12時半ごろ宿泊先である「寧波飯店」にやっと到着。こうして長い第一日目は終了。



第2日目、ホテルから20分程で寧波工程学院前へ。信号で一旦停止し、校門で待っていた学生2人に日本からの書籍・CD等を託す。その10分後寧波大学に到着。寧波大学大会堂に入る。2階のホールでは学生さんたち約30名が歓迎の拍手で迎え入れてくれる。日本から用意してきたお菓子袋が配られる。不破会長のあいさつ、寧波大学の日本研究所長張正軍教授から歓迎の言葉、流暢な日本語で大学における日本語学の学習状況などを話していただく。1人ひとり自己紹介はまず日本人は中国語で、学生さんたちは日本語で。学生さんたちの日本語は非常に上手で聞き取りやすく感心する。



小生と一緒にキャンパス内を案内してくれたのは、男子の黄利鵬さんと女子の李鴻さん。一緒に歩いていて最初、何を話していいかわからず、再びお互いの自己紹介をし、ともにキャンパス内をブラブラする。彼と彼女たちは、12月第一週に日本語能力検定試験があるとのことで、毎日毎日10時間以上勉強をしているという。「小黄」は来年9月から岩手大学に留学だそうだ。広場では、50人くらいずつ2組が綱引きをしている。お昼の時間になった。学生食堂の建物は意外と大きく4階建てで、めいめいが自分の食べたいものをチョイスし、値段は6元(≒90円)で安い。

寧波大学を後にし、今朝書籍などを託した「寧波工程学院」の前で集合写真を撮影。

そして天一閣へ向かう。天一閣は、1560年代(明代)に作られた個人(范钦という科挙に合格した人)の蔵書楼(書物が保存してある所で図書館のようなもの)である。現在は一般人にも解放されている。この敷地はとて広く、池や庭園や小さな林があり、まるで大規模な公園地内に蔵書棟や住居などが散在しているような感じである。天一閣の名称は、古代中国の五経の一つである易経の注釈「天一生水、地六成之」から取られたそうだ。



15:00月湖公園に行く。入り口に襤褸衣をまとった老人がスピーカー付きの二弦をかき鳴らしているのが妙に印象的であった。16:30天一広場に。日本でもおなじみのスターバックスコーヒーがあり、アメリカンコーヒーを注文し21元であった。

その後は、公共バスで寧波飯店に移動した。料金は2元。18:00ホテルに着いた。19時から楊先生のご両親、寧波工程学院の翁麗霞王先生、寧波大学の学生さんたちを招いて夕食会がある。

不破会長のあいさつと翁先生の歓迎のことばと続き、Wさんの乾杯、二度目の交流会が始まった。交流会の途中、おもわぬサプライズ。今回参加の日本人のなかに今日が20歳の生日のNさん。中国学生さんから大きなぬいぐるみがプレゼントされ、皆で「Happy Birthday to you」の大合唱。ハタチの誕生日をこの地で迎え、この出来事は彼女にとって忘れられない思い出となったであろう。

閉会后有志8人で飲みなおし、今回の旅の意義を確認し合った。

第3日目、

7:40紹興市に向けホテルを出発。[河姆渡遺迹については本文参照]

10:00頃、「魯迅故里」に到着。魯迅は、中華民国成立後に生まれ、日本に留学した作家で、「阿Q正伝」、「狂人日記」の作者であることぐらいしか知らなかった。今は中国で偉人の居宅として国家重点文化財級の扱いを受けているとのことである。魯迅の祖居では、まず三味書屋を見る。末娘(18歳)に「毛筆を買ってきてほしい」と頼まれていたの



だった。毛筆3本セットを購入。並ぶ店の端に小さな橋がかかっていて、下には水路が流れている。日本でいえば農村に見られる用水堀を大きくしたような水路で、これが江南水郷だろうか。

ここは紹興市、紹興酒の本場である。2本入りで70円のものを買求める。

14:00会稽山陰の蘭亭に到着。蘭亭といえば王羲之。王羲之といえはわずと知れた中国史上最大の書家で「書聖」と呼ばれ、近代書道の礎を築いた人として、つとに有名である。幾年もの風雪に耐えた入り口の石碑に書かれた「蘭亭」の文字は、左上から右下にかけ亀裂があり、文革時代に壊されそうになったのを地元の有志たちがここまでに復旧させたそうである。この地に一步踏み入るとそこはまるで別世界のよう。入り口からつながる細い水路と竹林の曲折の小径に続く風情はまるで優雅さと懐古を感じさせ、左手に佇む石碑にある「鵞池」の文字が眼に入る。ガイドさんの説明によれば、「鵞」の字は王羲之の筆によるが「池」の字は末子の王献之が8歳の時に書いたものだという。

16:15見学が終わり、一路上海市に向かう。

18時過ぎ、我われを乗せたバスが上海市内に入るころ、ついに鉛色の天はたまらず泣き出した。ポツリポツリと降っていた雨は、東方明珠電視塔に着いた18:40ごろには本降りに近くなっていた。30秒（超高速）、地上300mの展望台に着く。ここは回転展望階で緩やかに右回りに回っている。予定通り、この展望レストランでバイキング夕食である。一向に霧が晴れないのか、と思った一瞬サッと煙幕が開いた気がした。足元に、黄浦川に浮かんでいる船が見えた。

夕食後、その下の展望台に移ると、雨の中に映る夜景で有名な「外灘」が望むことができた。「上海大衆美林空港賓館」22時前に到着。



第4日目9時。ホテルの出口でKさんを迎えにきた息子さんの奥さんと記念撮影。

出国手続きの前に、11月末まで故郷にて休養をとる楊先生とお別れする。

11時、16番カウンターから、中国東方航空MU521便の搭乗手続きが始まり、11:40離陸。14:45成田空港着。三々五々家路についた。

『原稿募集中』

会員の皆様には是非ともニュースへの投稿をお願い致します。中国語講座受講の感想など、中国旅行体験記など、その他の事でも大歓迎です。

<<入会案内>>

つくば日中協会に入会ご希望の方は、事務局に会員登録票を請求し、記入の上、年会費と共にご提出下さい。

会費：一般：3000円、学生：1500円

賛助会員・団体会員：一口10,000円

つくば日中協会ホームページアドレス：

http://www.geocities.jp/tsuku_nittyuu/